

授業改善等に関する報告書（2019年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
社会と統計	竹内 光悦	なかなか必須で、朝一限でもありますが、あまり満足度が高くないのは残念です。またこの分野への興味も高くないのもまだまだアピールが足りないかなと感じます。自由回答項目はポジティブな意見が多かったため、こちらも参考に次年度に活かしたいと思います。
演習 I	高橋 美和	各項目が平均値に達し、まずまずの結果と言えらると思います。個人ワークとグループワークの二本立てにし、それぞれにプレゼンを課したので、内容はかなり濃かったかと思えます。履修者の皆さんはほぼ全員、各段階での提出物をきちんと期限通りに提出して私の期待に応えてくれました。レポートの書き方やパワーポイント資料の作り方が具体的に勉強になったというコメントをたくさんいただき、手ごたえを感じました。
演習 I	山根 純佳	予習復習時間の回答にバラツキがあったので、なるべく統一できるように課題の出し方を工夫したい
英語コミュニケーション I	阿佐美 敦子, ミラー, ブルース	欠席回数が0回と答えた方が7割、1回と答えた方が1割ということは担当者として嬉しいですが、というのは前回の授業で学んだことを踏まえて次の授業を展開するためです。欠席してフォローをせずにつぎの授業に出れば、理解は難しくなります。こちらのクラスは授業のスピード、わかりやすさの点で100%が4段階、5段階の回答をしていて、欠席の少なさとリンクしていると思われまます。
英語コミュニケーション I	阿佐美 敦子, シオティーノ, アン	この授業をどれくらい割合で理解できましたか、という問いに対して、時々理解できなかったとの回答が17.6%ありました。理解できないときはその都度、後回しにしないで教員に質問していただきたいです。特に外国人の先生に英語で質問するのは難しいかも知れませんが、どうぞチャレンジしてください。どう言っているかわからなければ、私がお手伝いします。
英語コミュニケーション I	マルチェフ, ミレン・アンゲロフ, 時田 朋子	コメントありがとうございます。よりよい授業を目指して改善に努めます。来年度もがんばりましょう。
英語コミュニケーション I	ミラー, ブルース, 富倉 教子	今回は教科書だけでなく、多角的な面からも学習効果を図れるよう試みた。結果として、ある程度達成感を得たものの、視覚的教材などを使用して分かりやすく提示することや進むスピードなど、改善点は見受けられた。今後は全体的に底上げしていけるよう、学習者のニーズなども鑑みながら改善していきたい。
英語コミュニケーション I	グティエレズ, ティモシー, 時田 朋子	コメントありがとうございます。よりよい授業を目指して改善に努めます。来年度もがんばりましょう。
心理学統計法	栗津 俊二	・全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。
英語コミュニケーション II B	阿佐美 敦子, マルチェフ, ミレン・アンゲロフ	この授業における週あたりの予習復習時間を問う質問で、42.9%が30分未満と回答しました。当該科目は週2コマでひとつの科目ですので、1コマあたりとすれば15分未満になってしまいます。これではとても十分とは言えません。来年度からは、より予習復習の大切さについて履修者の皆さんに呼びかけたいと思います。
英語コミュニケーション II B	阿佐美 敦子, ライト, アレックス	嬉しいことに、9割の方が「この授業を通じて、自身の成長が実感できた」と回答してくれました。そして6割の方は「この科目(系・分野)をさらに専門的に学びたい」と回答してくれました。3・4年次は英語の必修科目がないため、自分で英語の科目を選択したり、自学習したりして、続けて積極的に英語力アップの努力をなさるよう、強く希望します。学び方について等、一人で悩まずにご相談ください。
英語コミュニケーション II B	シオティーノ, アン, 時田 朋子	コメントありがとうございます。よりよい授業を目指して改善に努めます。必修の英語の授業はこれで終わりですが、今後とも英語の学習を続けてください。
英語コミュニケーション II B	ミラー, ブルース, 時田 朋子	コメントありがとうございます。よりよい授業を目指して改善に努めます。必修の英語の授業はこれで終わりですが、今後とも英語の学習を続けてください。
英語コミュニケーション II B	ライト, アレックス, 富倉 教子	今学期は宿題なども含め内容的にも要求度が比較的高かったにもかかわらず、ほとんどの学習者は努力を怠らず、その結果として、平均値をわずかではあれ超える自己評価や授業満足度につながったと考えらえる。今後は視覚教材などをより効果的に使用したりしながら、学習者の教科に対する理解や関心を深め、学習者が英語を使用している自己表現、さらにはその楽しさへとつなげていけるよう努力していきたい。

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習ⅢB	篠崎 香織	積極的にゼミ生が動けるように内容を構成しましたが、もっと動きがあるよう私が介入する必要があったかもしれません。 演習Ⅲはとにかく参加学生がactiveになれるよう、仕掛けを再度検討します。
演習ⅢB	粟津 俊二	2人しか回答していないので参考程度の授業評価になってしまいますが、発表の仕切りが緩かった(長すぎるなど)のと、もう少し課題を厳しめに成長が実感できるようなものにした方がいいのかな、と思いました。参考にします。
演習ⅢB	高木 裕子	今回はもう少し多くの方からの評価をお願いします。
演習ⅢB	原田 謙	授業内容と方法に関する評価はおおむね良かったようです。 PBLのリーフレット、ゼミ論文も無事完成しました。 来年度の卒論に向けて、4月までに準備をすすめておきましょう。
演習ⅢB	広井 多鶴子	学生のみなさんはそれぞれきちんと課題に取り組んでくれたと思います。反省点は、教師の話が多くなり、学生が聞く時間が多かったということです。「どう思いますか」とか「質問はありませんか」と聞いても、なかなか発言が出ないので、今後は、学生自身がもっと話をするように、ワークショップ形式を取り入れようと考えています。
演習ⅢB	松下 慶太	回収率が低かったのも影響しているが、ワークショップや地域活性化プロジェクトなど課外活動が多かったため、演習そのものへの欠席回数も多く、また予習復習の時間が少なくなってしまうことは今後、改善すべき点である。
演習ⅢB	谷内 篤博	ゼミを通じて学生が成長を実感した点はいいと思うが、さらに学習を深めていきたいとする点数が4を下回っており、反省せざるをえない。学生にHRMの興味を高めるような授業を心がけていきたい。
演習ⅣB	篠崎 香織	卒論お疲れ様でした。 調査をしたひとは特に分析、考察、二次データを使った人は必要なデータ選びが身についたと思います。今後に生きてくることを期待しています。
グローバル・スタディーズ	神山 静香	教員からの指示が十分でなかったため回答数が少なく、全体の評価とは言えないかもしれませんが、履修理由として回答者の多くが授業内容への興味を挙げており、毎回の授業で実施したレスポンスによるアンケートに積極的に意見や質問等を記入してくれた学生も多かったように思います。次年度の改善点として、国際的なビジネスに関する問題について幅広い論点を扱うため、レスポンスやアクションペーパーで履修者の皆さんの理解度を確認しながら、授業内容や配布レジュメ等に反映させ、わかりやすいものにしていきたいと思えます。また、予習復習時間が少ないと回答した人が多かったため、履修者の皆さんに自主的に予習や復習を行ってもらうための教材や資料等を提示することを検討し、授業の理解度を高めるよう心掛けていきたいと思えます。
財政論	大澤 美和	分析結果をみると、理解度は、概ね良好だと思います。 令和2(2020)年度も、分かりやすさを第一に、日本経済や国民生活の理解に不可欠な財政について解説します。 また、公務員等を目指す受講生にも寄与する講義といたします。
情報ネットワーク	駒谷 真美	アンケートは、最終回の講義の終了間際に時間を取って実施した。「アンケート回答率」が13.3% (15人中2人回答)であった。5時限目にもかかわらず、履修学生の多くが真摯に取り組んでくれた。「情報セキュリティ」を扱った最新の内容とスタイルであったが、学生たちは戸惑うことなく、柔軟に適応してくれた。 今回は回答数が15人中2人であった。よって、アンケートの詳細について統計的な考察は差し控えたい。しかしながら、ネットの功績と脅威に興味関心を高めながら積極的に学び、課題を自ら発掘し、グループ発表を最後までやり遂げてくれた学生たちに感謝したい。
演習ⅣB	松下 慶太	回収率が低く、フィードバックができませんでした。
演習ⅣB	粟津 俊二	回答者数1というのは、さすがの粟津ゼミ4年生という感じです。問題があれば、直接言うだろう、と思ってます。
演習ⅣB	高木 裕子	卒業論文の作成他、本当にご苦労様でした。よくやったと思います。

[2019（後期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習ⅣB	原田 謙	今年度の卒業論文は、とても読み応えのあるものが多かったです。皆さんが執筆したスケジュールで、来年度も進めたいと思います。2年間、ありがとうございました！
演習ⅣB	広井 多鶴子	「調べる力がついた」「分析する力がついた」などの感想がたくさんありました。まとまらなかったものが徐々に形になっていく中で、論理を作っていくことの面白さを味わうことができたのではないかと思います。
演習ⅣB	谷内 篤博	全体的に学生諸君が満足してくれたようで、ゼミ担当者として一安心している。今後はオール5になるように心がけていきたい。
都市フィールドワーク	原田 謙	アクティブ科目のため、課題も多かったのですが、授業内容と方法に関する評価はおおむね良かったようです。2年生はゼミ活動、3年生は卒論で、この授業で学習した「質的分析」を活用してみてください。
メディア社会論	駒谷 真美	アンケートは、最終回の講義の終了間際に時間を取って実施した。「アンケート回答率」が74.2%（159人中118人回答）であった。履修学生は、4時限目で疲れている状態にもかかわらず、15回の講義と6回のリフレクションシートと2回の課題レポートについて、最後まで真面目にかつ積極的に取り組んでくれた。特に、アドミュージアム東京のフィールドワークと冬休みの災害報道レポートを課題にしたが、果敢に参加してくれた。その結果、大人数の講義で、全10項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変喜ばしく、今後の励みとしたい。
演習Ⅰ	織田 弥生	演習Ⅰではディベートとレポートを通して、文献を探し、客観的データから議論を組み立てる、パワーポイントを作成しプレゼンテーションをする、他の人の発表・意見を批判的に聞く、討論する、といったアカデミックスキルの習得を目指しました。自由記述では、ディベートを通して、ディベートの仕方はもちろん、様々なアカデミックスキル（文献調査、発言力、論理的思考、パワーポイントの使用法、プレゼンテーション等）が身についた、グループで協力して作業が出来た、などの意見があり、皆さんがスキルを身につけることができたのであれば良かったと思います。これらのスキルは2年生以降、卒論まで必ず役に立ちますので、今後もさらにスキルアップを目指してください。授業の内容と方法についての評価に関しては、全ての項目で平均値を上回っており、総合評価も平均より高くなりました。中でも「自身の成長が実感できた」と感じている人が多くいたのが素晴らしいと思います。今後も研究に役立つようなスキルを身につけてもらえる授業をしたいと思っています。
演習Ⅰ	原田 謙	総合評価も4.5点を超えており、授業内容についてはおおむね満足してもらえたようです。自由回答を見ると、とくに最後のレポートの添削が良かったようです。2年次には、もう一歩先のプレゼン、レポート作成を目指しましょう。
演習Ⅰ	松下 慶太	内容・方法については満足度が高く、ちょうどよいレベルを提供できた。また予習・復習時間についても十分な時間を取って演習に臨んでいることが見て取れる。レポートの基本的な書き方を理解できた学生が多かったようで授業目標は一定程度達成できたと言える。今後は専門的に学ぶためのモチベーション、自己採点などの評価を高める工夫をしたい。
演習Ⅰ	数野 昌三	本演習においては、グループでテーマを設定、問題点を把握、諸問題解決への道を調査する作業を各自3回実施し、パワポおよびレジュメ作成に当たり苦労したことと思います。それは、自分の理解を深め、聞き手にとり理解しやすくするための作業でした。本演習において努力した学生は、その努力が必ず上級学年において役立つことと思います。
演習Ⅰ	竹内 美香	新入生の皆さんが、仲間や教員と交流する中で、本来の「人間社会学部で学んで、このような自分になって行きたい」というイメージを獲得できるように・・・それが「演習Ⅰ」を担当した教員自身の目標でした。この初年次ゼミでは人間社会学部らしさを意識したテーマ、つまり社会的課題、特に時事に即したディスカッション課題を出題しました。学生の皆さんはグループメンバー間で相談し、取り組むテーマを選びました。発表は対戦型で競合チームとのコンペの形式で、いくつかの課題があることを学んでいただけたことと思います。それだけでなく、コミュニケーション能力トレーニングの場としてのグループワークの利点を考えていました。今期の皆さんは、教員の期待以上に意欲的に、時には楽しそうに発表の準備をしている様子で、教員自身も励まされました。これからもグループワークでの取り組みにも、all for one, one for allの精神を発揮してください。いよいよ次年度から、幅広く学べる人間社会学部の学びに加えて、ご自身の専門性(specialty)を目指す課程が始まります。ご一緒に頑張りましょう。

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習 I	竹内 光悦	多くの方が好意的な意見でほっとしました。2年生になってもこの演習で覚えたことを引き続き、頑張ってください。
演習 I	井上 綾野	出席率も高く、皆さんの意欲がとてもあらわれていた授業だったと思います。最初は馴染みのない課題に戸惑いも見られましたが、徐々に成長が見られたところが良かったと思います。
演習 I	角本 伸晃	「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？」と「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」で同じ4.47をいただくことができました。しかし、「13. この科目(系・分野)をさらに専門的に学びたいと思いましたか？」では「全体平均よりは高いものの4.05と下がっている」ので、次年度はより一層の工夫をしたいと思います。
調査・実験データ処理法	竹内 光悦	おおむね好意的な意見が多く、よかったと思います。情報化社会となり、さらに多くのデータ処理や分析が必要となりますので、次年度以降も工夫していきたいと思います。
経営管理論	篠崎 香織	今回はこれまでしてこなかったグループワークを取り入れました。もっとたびたび実施することで、活発な議論ができるようにしていきます。そうすることで、「学びの実感」、「履修後の成長」が得られる授業に変えていけると 생각합니다。
キャリア・マネジメント論	谷内 篤博	この授業は本年度よりカリキュラムの改変で1年生科目となったが、やはり内容的にはかなり高度で難しかったようである。ディスカッションやリアクションペーパーを活用したが、学生の理解と興味を高めることにつながらなかったようで残念である。人数が多く、環境的にもよくなかったが、分かりやすい授業に努めたいと思う。
演習 II B	竹内 美香	人間社会学科を選択して、専門課程としての自分の学びを少し考え始めた皆さんに相応しいテーマ、人間社会学部らしい社会的課題、特に時事に即したディスカッション課題を出題しました。 学生の皆さんはグループメンバー間で意欲的に相談し、テーマを選びました。発表は対戦型で競合チームとのコンペの形式で、いくつかの課題があることを学んでいただけたことと思います。 それだけでなく教員は、コミュニケーション能力トレーニングの場としてのグループワークの利点を活かしたいと考えていました。メンバーの学生それぞれは、教員が期待した以上に意欲的に、時には楽しみながら課題に取り組んでくれました。毎回、教員自身も励まされるような演習となりました。 いよいよ次年度から、ご自身の専門性(specialty)を本格的に充実させる課程と、就職など進路準備の活動が始まります。 一つ一つの試行錯誤の経験(丁寧にやってみること、仲間を巻き込みながらやってみること)は、明日のあなたの実力として結実します。信じて、一緒に頑張りましょう。
演習 II B	織田 弥生	演習IIBでは、3年生以降につながるようなアカデミックスキルの基礎の習得を目指しました。具体的には文献を探す、レジュメを作成し発表する、調査項目を作る、データを取り、結果をまとめる、パワーポイントで結果をプレゼンテーションする、発表に対して質問する、といったスキルです。授業の内容と方法、総合評価とも、全て平均以上の評価でした。予習復習時間も平均時間を大きく超えており、皆さん非常に積極的に授業に臨んでいただいていたと思います。「自身の成長が実感できた」という評価も高く、目標としていたスキルを身に着けることができたのであればよかったと思います。自由記述では様々なアカデミックスキル(プレゼンテーション、文献検索、要点のまとめ方など)が身についた、という意見が寄せられました。来年度以降の専門ゼミにも是非役立てて頂ければと思います。今後もアカデミックスキルの基礎を身につけられるよう、工夫していきたいと思っています。
演習 II B	松浦 常夫	皆さん、発表ごころうさまでした。
演習 II B	神山 静香	卒業論文を執筆するための基礎となる思考力や分析力、課題を発見する力等を養うために、それぞれが興味のあるテーマについてプレゼンテーションやディベートを実施しました。興味深い問題提起や分析が多数ありましたが、形式や方法論に加えて、ディベートやプレゼンテーションを行うことによつてどのような力を養うことを目的としているのか、なぜそのような力を養うことが必要なのかということについて、もう少し時間をかけて説明する必要があったと思います。この点は次年度の改善点としたいと思います。
演習 II B	篠崎 香織	レポートの書き方、ディベート、「日本の光」に注目した調べ学習と発表、水ビジネスの提案と、いろいろな課題にしっかり取り組めたと感じます。もっとお互いに意見を活発に出し合える環境を作っていきたいと思っています。

[2019（後期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
特別講義B	高橋 美和	「双方向授業の工夫」と「板書や授業資料のわかりやすさ」の2つが平均値以下で目立った項目でした。履修者人数の少ない科目でしたので、こちらから質問を投げかけたり、だいぶ努力をしましたが、非常に内気な方が多く、なかなかうまくいきませんでした。①については学生の皆さん自身にも少し積極性がほしいと思います。②は、配布資料の一部が、やや難解（レベル高すぎ）だったかもしれません。3、4年生だから大丈夫だと思ったのですが。提出物についてはかなり難しい論文にみなさん取り組み、努力のあとが見えました。
社会文化事業論	高木 裕子	今年度もできるだけ身近な題材を取り上げ、ご自身で実際に観察したり、調査・分析したりする中で、また、文化事業に関わる方のお話も直接に伺いながら、その実体を知り、実感をもって学んでいけるよう工夫はしたつもりです。これからも興味や関心をもって、実社会やお仕事で使っていて頂ければと思います。
演習ⅢB	阿佐美 敦子	3年次のゼミ活動はほぼすべてがグループ単位での作業となり、仲間と上手くコミュニケーションをはかりながらひとつひとつの課題をクリアすることは容易ではなかったかと思いますが、そうしたチャレンジを通じて多くの方が自身の成長を実感できたと回答していて嬉しく思います。
演習ⅢB	角本 伸晃	「9. 板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったですか？」や「10. 担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか？」で同じ4. 71と高い評価がつけました。しかし、「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」では4. 14と全体平均編みとなっているので、次年度はより一層工夫したいと思います。
演習ⅢB	駒谷 真美	「アンケート回答率」が16.7%（12人中2人回答）であった。今回は講義中にアンケート回答の時間を割かず、学生の自主性に任せた。3年生は、卒論計画書を作成し、インタビュー調査項目を吟味し準備段階に入っている。加えて、後期からは、大学公認ラジオ番組「JJ Campus Voice!!」を立ち上げ、3年生全員が企画・取材・実践まで手掛けている。その活動にも追われ、アンケート回答まで手が回らなかったかもしれない。よって、結果の詳細について統計的な考察は差し控えたい。 2人の回答であるが、9項目において全体平均と当該区分平均を大きく上回る評価を得たことは、有り難い。特に「理解度」「自己成長」「専門的学び希望」「自己採点」「授業満足度」について、学生自身が肯定的評価をし、実感してくれていることが何よりも嬉しい。
演習ⅢB	竹内 美香	1年間の専門ゼミ、お疲れ様でした。 ゼミ生の皆さんは、ご自身の頑張りに対して自信を持って評価できる取り組みができましたか。 後期は、前期に実施した「大学生のライフスタイルと幸福感」についての調査の解析報告から開始しました。解析も班メンバーで非常によく協力して、かなり精緻な報告まで完成させることが出来ました。ゼミ見学の2年生も感心して「3年生になるとあんなすごいことが出来るようになるのですね」という声が聞こえたほどです。 卒論準備の専門ゼミとしては、一応、「調査実施・解析・読み込み・報告」までの手順とスキル獲得の目標は（ある程度）達成できたのではないかと考えています。 後期の演習では、卒業研究を視野に入れたテーマで専門学術誌から論文を収集して「抄読」レポート作成とプレゼンテーションをしました。戸惑いながらも、全員が自力でご自分の課題さがしに取り組みました。大学生の専門ゼミに相応しい価値ある取り組みが出来て有意義な時間となりました。
演習ⅢB	山根 純佳	卒論執筆のために必要十分な調査データを収集するために必要な「仕掛けづくり」について、ゼミ生それぞれが、ある程度の見通しを持つことが出来たでしょうか。まだまだ、(2020年2月中旬の)現時点では、テーマに迷う人も多そうですが、そういう時は、とにかく先行研究の情報を集めて読んでみることが最も大切です。それこそが大学生の自学自習・自立自営の「事始め」の取り組みとなります。 卒業研究が開始されます。教員とゼミ生が協働して、「報告」「連絡」「相談」を細かくして、着実に進めましょう。 心身共に健康に、勇気と自信をもって課題に取り組んでいきましょう。 回答率がよくありません。 今回の授業アンケートには積極的に参加してください。
演習ⅢB	山根 純佳	自己採点の回答にバラツキがあったので、なるべく自己採点を高くできるように指導を工夫したい。

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習ⅢB	時田 朋子	呼びかけが足りず、回答率が低くて申し訳ありません。よりよい授業を目指して改善に努めます。
社会調査方法論	原田 謙	成績分布は、A+が11.4%、Aが26.9%、Bが38.9%、Cが19.2%、不合格が3.6%でした。授業内容のわかりやすさや聞き取りやすさの評価は高かったのですが、双方向授業の工夫に改善の余地があるようです。来年度は、Responなどをもう少しうまく活用したいと思います。授業で習った調査方法を、ゼミ論文や卒業論文で活用してください。
演習ⅣB	山根 純佳	提出者が1名だったので、より多くの学生が回答するように指導をしたい。
演習ⅣB	阿佐美 敦子	回答者数が少ないため、ゼミ生皆の感想が反映されておらず、判断が難しいところですが、少なくとも回答したお二人は授業を通じて自身の成長が実感できた、総合的に授業に満足したと答えていらして、嬉しく思います。
演習ⅣB	角本 伸晃	回答者1人でしたが、「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか？」と「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」とで同じ5.00でした。次年度も頑張ろうと励みになります。
演習ⅣB	竹内 美香	全員が卒業論文を提出することができました。 <p>まずは安心し、頑張った一人ひとりに担当教員としても感謝申し上げます。授業アンケートへの回答者が少し少ないのが気になります。最終の発表会では例年以上に質の高い仕上がりを見せて頂きました。途中では「どうなることか」と思った事例も少なくないゼミでしたが、報告会を見ながら、それぞれの学生が「卒業論文」を自分のものに出来たのだろうと、安心しました。</p> <p>さて、「卒論」は個々人の大きな課題であり、自力で解決することに直面する集大成としての「修行の場」でもあったはずですが。課題に直面して、その課題を打開する主体は自分であり、誰も替わることはできません。その事実の過酷さに直面する経験は、今後の「あなた」の人生に大きな価値をもつことでしょう。「怖い思い」をしたことを忘れないで欲しいと思います。その「怖い思い」こそが、あなたに日常な真摯な取り組みの価値を教えてくれるものです。</p> <p>卒業論文の取り組みのよいところは、どんな時にもけっして孤独になるのではなく、教員とゼミの仲間と呼びかけることができることだったと思います。ここで得難いネットワークを持つことができた人も多いでしょう。一生モノの仲間です。その絆を大切にしましょう。</p> <p>社会人になったら、周囲の関係者とネットワークを結び、つねに「報告」「連絡」「相談」することを心がけましょう。「与えることは、受けること以上に幸い也」という言葉もあります。たくさんの方々に、あなたの力を惜しみなく注いで、たくさんの方々の信頼を得て、善き人生を歩んでください。</p> <p>そのことの基礎力を、「あなた」は仲間と一緒に卒論の完成を目指し、達成したことで身に着けたはずですが。</p> <p>「惜しみなく与え」ましょう。 よき人生を。</p>
演習ⅣB	時田 朋子	呼びかけが足りず、回答率が低くて申し訳ありません。よりよい授業を目指して改善に努めます。
地域社会学	高橋 美和	平均値よりもやや低かった回答は、①双方向授業の工夫、②板書・授業資料のわかりやすさ、でした。①については、毎回の授業コメント全てにフィードバックできていなかったことによるものと思います。理解度が低い場合には、次回授業で全体へフィードバックしていたのですが、個人的にフィードバックしたようがよかったのかもしれない。②は、おそらくパワポを用いない時の板書がいまひとつだったせいかと思っています。以上が今後改善すべき反省点です。ただ、自由記述に東南アジアのことがよく良かったというコメントが多く寄せられ、嬉しかったです。
行政法	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
女性と労働	山根 純佳	予習復習時間の回答にバラツキがあったので、なるべく同じ時間を予習復習に割けるように課題の出し方を工夫したい。
経済学概論	角本 伸晃	「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」が3.91と全体平均を下回っている。昨年は3.64だったので、少しは授業改善が評価されたようだ。次年度はせめて全体平均編みになるように一層の工夫をしたい。

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
コミュニケーション概論	高木 裕子	<p>必修であることから、興味・関心を全体的に喚起し、意欲的に授業に取り組んで頂けるにはまだまだですが、実際にやってみるという体験学習や問題を考えると課題設定から、少しは講義形式から脱却し、この分野を身近に感じて頂けたのではないかと思います。今後の課題は機器や可動式ではない教室環境で、どのように様々な取り組みができるかだと思います。学び方を学んで頂ける方法を引き続き模索します。</p>
地域経済論	山本 匡毅	<p>今回、地域経済論の授業評価はおおむね肯定的であり、全項目で全体平均よりも高い評価をいただきました。これは学生が積極的に授業に臨んでくれた成果であり、御礼申し上げます。</p> <p>個別の評価では、受講生が具体的に成長を実感したこととして、「地域経済の見方」、「地域について分析する力」が身についたという意見をいただき、本授業の当初の目標を達成できたと考えています。また授業理解を深める上では、解説の方法、資料について肯定的な意見をいただきました。感謝申し上げます。次年度も分かりやすい解説と資料作りを心掛けて参ります。最後に課題として、manabaの活用があります。自由意見にあったように、授業内で解説しきれなかったことをmanabaに上げるべきであったと反省しています。また今年度は少人数であったため、欠席回の授業資料は手渡しで配布しましたが、次年度からはmanabaにアップし、いつでもダウンロードできるようにしたいと思います。</p> <p>次年度は、より分かりやすく、学びが楽しいと思える授業を行えるようにして参ります。</p>
人格心理学	竹内 美香	<p>回答数が少ないです。</p> <p>何度も何度も、授業評価アンケートへの呼びかけをしたのですが回答者が少ないのが残念です。朝1番の授業ですので、履修人数も少なかったということもありますが。</p> <p>回答してくださった方、本当に貴重です。ありがとうございました。</p> <p>回答者数は少ないのですが、内容の「理解」、科目内容の「目標一致」「講義の速さ」と「説明のわかりやすさ」「満足度」など、今年も十分に高い評価を頂きました。</p> <p>1限の授業を履修する時には、実際、学生さんにも「コストをかける」意識はあるのだと思います。その中で履修をされた方々ですから、担当者はいつも受講者の並々ならぬ熱心な受講態度に触れ、とても励まされました。今年も本来的な「人格心理学」に必要な内容と、大学院並みの詳細な学術研究情報まで、紹介することが出来ました。受講生からは、時に専門的な講義内容に対して、むしろ好意的で熱意あるコメントが寄せられ、講義担当者としても大学の講義に相応しいトピックを扱うことが出来たものと、安心しました。</p> <p>今年から「公認心理師」のカリキュラムも意識して「感情・情動」にも言及する形での「人格心理学」を講じました。半期間の授業回では、収まりきらないほどの先行研究や紹介したい資料がまだ数多あります。受講者の皆さんからのコメントにも可能な限り回答できるように努めました。今後の授業内容にも参考にさせて頂き、さらに内容を充実させて行きたいと思っています。</p> <p>さらに学びましょう。</p>

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
女性心理学	竹内 美香	<p>「女性心理学」では青年期の「自己開発」途上にある皆さんが、女性としてこれからの生涯をどのように生きるか・人を愛して・自身の人生を満足して過ごすこと、WHOの健康の定義における「well-being」をその時、その時、どのように実現するか、しかもそれを自分の力で……。そのことについて、一緒に考えてきました。</p> <p>「女性心理学」における毎回のフィードバックシートは、全般的にみても、最終レポートよりも「見るべきもの」が多かったと評価しています。評価も「毎回の学びのフィードバックシート」に読みとれる思考の深さにウェイトを重くしています。(そのくらい、毎回提出されるシートの内容の価値が高かったということです。)</p> <p>今年度も産婦人科専門医の先生をゲストにお招きして、女性的心と身体の全般的健康とライフプランを具体的に考える時間を持つことが出来ました。「女性心理学」は、公認心理師科目に移行して行くことを展望しており、この分野、即ち「医療と健康」の内容をさらに充実させていく予定です。受講生の産婦人科ドクターのゲスト講義に対する深い反響を今回も見せて頂き、この分野の情報をさらに充実させるニーズがあることを確信しました。特に「知っているようで、知らない自分の(女性の)身体」についての啓発効果には、瞠目するべきものが読み取れました。</p> <p>今期の授業で学んだこと、学ぶべき事項の価値を知った方は、ぜひこれからも、自分から広い視野をもって、学び続けてください。</p> <p>ところで何度も、何度も授業アンケートの回答を呼びかけましたが、回答者が少なかったのが気がかりです。「するべきこと」として案内した善なのです。今回、回答して下さった学生諸姉には心から感謝いたします。回答して下さった方のほとんどが、ほぼ「この授業に満足した」と答えています。安堵しました。</p>
演習ⅣB	織田 弥生	<p>演習ⅣBでは卒業論文の作成を行いました(データ解析、本文の作成、卒論発表会のプレゼンテーションなど)。何度も修正があり、大変だったとおもいます。お疲れ様でした。回答人数が少なかったため数値に関するコメントはしませんが、おおむね満足していただけたのかなと思います。卒業後は研究はしないかもしれませんが、論理的に考える、わかりやすく文章を書く、ほかの人にプレゼンテーションする、などのスキルは、様々なところで役に立つと思います。今後の社会人生活に生かしていただければと思います。</p>
演習ⅡB	数野 昌三	<p>本演習においては、グループでテーマを設定、問題点を把握、諸問題解決への道を検討する作業を各自3回実施し、パワポおよびレジュメ作成に当たり苦労したことと思います。それは、自分の理解を深め、聞き手にとり理解しやすくするための作業でした。ディベートも頑張りました。各専門ゼミにおいて羽ばたいてください。期待しています。</p>
演習ⅡB	粟津 俊二	<p>・全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。</p>
演習ⅡB	松下 慶太	<p>内容、方法に関しては比較的満足度が高かった。また欠席回数も少なく、演習へのコミットは高かったと言える。一方で、予習復習時間については十分とは言えず、もう少し課題の出し方を工夫したい。</p>
演習ⅡB	金津 謙	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。</p>
演習ⅡB	井上 綾野	<p>出席率があまり高くないことが残念でしたが、個々の課題に対する取り組みは素晴らしかったと思います。先輩が加わることで、2年生にとってとても良い学びの機会になりました。この機会を来年度の学びに繋げてください</p>
言語コミュニケーション教育論	高木 裕子	<p>今年度はこれまでの方法論から大きく変更し、前半と後半に学習活動を分け、後半では実際に体験して頂く、振り返って頂くということを学びの循環の中でやってみました。多くの学生がいる中で、同時に違う目標を達成し、多目的で行わせることは大変ですが、今回の結果を得て、継続的にやっていくべきこと、可能性も見いだせました。ここで学んだ方法や見方・考え方は是非とも実際に応用したり、気づきに役立ててください。</p>
演習ⅢB	神山 静香	<p>教員からの指示が十分でなかったため回答数が少なく、全体の評価とは言えないかもしれませんが、殆どの項目で肯定的な評価を得ることができ、また、授業を通じた成長が実感できたとの項目で肯定的な回答が得られたことを嬉しく思います。難しい課題にも一人ひとりが意欲的に取り組んでくれたと思います。それぞれが目標をもって自主的にゼミ活動に取り組むことにより、成長が実感できるよう、一人ひとりと十分なコミュニケーションをとり、興味や目標、課題などを把握しながらゼミを進めていきたいと思いません。</p>

[2019 (後期) 人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習ⅢB	井上 綾野	対外的な活動をしたり、活発かつ自律的な活動が出来た点は高く評価したいと思います。
リーダーシップ開発A	松下 慶太	学生主体の演習であったため満足度は高い。改善があるとすると、欠席の割合が高く、予習復習の時間が十分でないためより授業にコミットする工夫をしていきたい。コメントなどからリーダーシップのあり方については一定程度の理解が進んだと考えられる。
応用心理学	松浦 常夫	少し、難しかったかもしれません。
演習ⅣB	神山 静香	教員からの指示が十分でなかったため回答数が少なく、全体の評価とは言えないかもしれませんが、殆どの項目で肯定的な評価を得ることができ、また、「自分が提起した問題について、論理的に根拠をもって考える力がついた」とのコメントがあり、大変嬉しく思います。履修者の一人ひとりが真剣に卒論の執筆やプレゼンテーションの準備に取り組んでくれたと思います。卒論の執筆を通して、探求心をもって学ぶことへの意欲が生まれるよう一人ひとりと十分なコミュニケーションを取りながら、卒論の指導を行っていきたいと思います。
演習ⅣB	井上 綾野	教員が変わって、1年しかない中で各々が努力して卒論を仕上げることができ、とても良かったと思います。
演習ⅣB	数野 昌三	アンケート回答者3名のみ。皆さんの声が聞きたかったです。卒論提出を終え、締切日が確定している事柄については逆算せず、可能な限り早く取り組み、計画的に進めることを学び、発表に関しては3回、限られた7分間という時間の中で人前でわかりやすく説明することの難しさを理解できたことと思います。あつという間の2年間でした！お疲れさん。
人間教育学概論	広井 多鶴子	授業評価アンケートをみると、まずまずの評価だったのではないかと思います。しかし、試験の結果を見ると、伝えたかったことが十分伝わっていないようなにも思います。ていねいに説明したつもりだったのですが、それだけでは分かりづらかったのでしょうか。講義を減らして話し合うなどの作業を増やす必要があると思いました。
広告・PR論	井上 綾野	事例を多く取り入れることで、今の広告を感じてもらえる良い機会になったのではないかと思います。これを機に広告に関心を持ち続けてもらえると嬉しいです。
教育社会学	広井 多鶴子	新書を2冊読み発表する授業でしたが、学生はみなまじめに課題に取り組んでくれたと思います。大変だったと思うのですが、それに対する不平はなく、いい感想が寄せられました。大学で本をじっくり読むことはとても大切なことですし、3年後期ということで受講生も少ないので、今後も継続したいと思います。
社会学概論	原田 謙	成績評価は、A+が21.6%、Aが25.2%、Bが27.9%、Cが20.7%、不合格が4.5%でした。説明のわかりやすさや聞き取りやすさは4.5点を超えており、高評価でした。来年度は、質問のしやすさや、より専門的な内容への展開を意識して、授業をしたいと思います。
社会と統計	竹内 光悦	全体的な数量的評価ではあまり高くはなかったのですが、自由回答の回答をみると、本授業で学ぶ意識に少なからず影響を与えることができたようで、次年度に向けてさらに工夫していきたいです。
経営学概論	篠崎 香織	全体に意見を聞くこともありましたが(3択)、あとは前のほうに座っている人たちに声をかけるような授業になっていたのも、もっと多くの人から意見を聞き、調べて、授業を聞き、理解するという流れを作っていけるように心がけます。
教育心理学	織田 弥生	授業の内容と方法、総合評価とも、全て平均以上の評価でした。今後もこの状態を維持したいです。自由記述では、教育心理学の内容について理解が深まった、等の意見がありました。今後も興味がわくような、わかりやすい説明を心がけたいと思います。
異文化理解	阿佐美 敦子, 時田 朋子	履修の理由として、授業内容に興味があった、教員に興味があったからという積極的なものが88.4%と高かったからか、総合的な満足度も満足したという回答が8割を超え、個別に書いてもらったコメントには履修して良かったという言葉が多々、見受けられました。来年度もさらにわかりやすく、興味深い授業にできるように工夫に努めます。

【2019（後期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
会社法	神山 静香	回答者の半数が履修理由として授業内容に興味があったからと回答しており、毎回の授業時に実施したレスポンスによる授業アンケートでは殆どの履修者が授業の感想や意見、質問等を積極的に記入してくれていました。毎回、アンケートには興味深い意見が記載されており、授業を実施する上で大変参考になりました。双方向授業等の工夫の項目で回答者の80%から肯定的な回答をいただきましたので、次年度以降も出来る限り、履修者の皆さんの意見や疑問点を毎回の授業内容に反映していくよう心掛けたいと思います。授業の理解度については回答者の90%が肯定的な回答をしており、説明のわかりやすさについては回答者の80%から肯定的な回答をいただきました。「就職に役立ちそうだと感じた」とのコメントもいただきました。ありがとうございます。「会社法」や「法律」というと、難しいイメージがあるかもしれませんが、就職活動に関わる問題や企業の実際のビジネスの事例等、履修者の皆さんの身近な問題を題材として、わかりやすい授業を行うよう心掛けていきたいです。課題としては、授業時に前回の授業の復習に多くの時間を割くことがありましたので、履修者の皆さんに自主的に予習や復習を行ってもらうための教材や資料等を提示することを検討したいと思います。
心理アセスメント法	佐藤 恵美	この授業は公認心理師科目ということで、特にアセスメント時の守秘義務やインフォームドコンセントを中心に、そして各種心理検査を紹介しました。人数が少なかったため、また心理の知識をある程度お持ちの方が多く、この講義はとても楽しかったです。今後は双方向による授業を心がけたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。
法律学	数野 昌三	「法律」と聞くと、法学部以外では堅苦しく自分たちとは縁遠い存在とイメージする学生がほとんどです。しかし、条文解釈は難しいものの、自分たちの身近に存在し、日常生活に必須であることが理解できたことは、今後、法律を学ぶうえで重要なことと思います。 難しいという苦手意識をなくし、法律科目を受講していきましょう。
消費者心理学	井上 綾野	モデルや理論が多く、難しい面も多くあったかもしれませんが、テストの結果を含めとても理解度が高かったです。心理学的な視点から、消費者の行動に対する理解度が深まったのではないかと思います。
心理学概論	松浦 常夫	気になった心理学の内容があったら、2年生で受講してください。
心理学実験実習Ⅱ	織田 弥生	この授業では、自分たちで実験を計画・実施・結果の発表・レポート執筆をするという課題を行いました。一から実験を考え実施するのは、与えられた課題を行うより大変だったと思いますが、苦労した分だけ実力が付いたと思います。アンケート結果に関しては、授業の内容と方法・総合評価とも、全て平均以上の評価でした。予習復習時間も平均時間を大きく超えており、しっかりと実験計画やレポートに取り組んだことが伺えました。自由記述では「実験をする力がついた」「思考力がついた」などの意見が集まりました。今後も心理学実験に興味を持ってもらえるような授業を心がけたいと思います。
心理学実験実習Ⅱ	粟津 俊二	回答者数が少ないのですが、全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.5程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。なかなかヘビーな課題をしてもらいましたので、平均学習時間もそれなりに長くなっています。皆さん、頑張ったと思います。
ダイバーシティ論	山根 純佳	板書やパワーポイントがわかりづらかったとの回答もあったので、より工夫してわかりやすい資料を作成できるよう心がけたい
社会調査実習Ⅱ	竹内 光悦	自身の成長などを感じられたとのコメントもあり、満足度も高く、よかったですと思います。これからも社会に出た際に調査系で慌てないように実践力を付ける授業展開を目指します。
演習ⅣB	駒谷 真美	アンケート回答率が0%であった。今回は講義中にアンケート回答の時間を割かず、学生の自主性に任せた。4年生は、卒論発表会の準備と就職先の研修で忙しく、アンケート回答まで手が回らなかったかもしれない。よって、結果の詳細について統計的な考察は差し控えたい。 4年生15人全員が卒業論文を無事提出し、最後の発表までベストを尽くしてくれたことを称賛する。
家族法	数野 昌三	家族法、具体的には、夫婦（婚姻・離婚）、親子（実子・養子）、相続（法定相続・遺言、改正法にも言及しました）について学びました。 まだまだ身近な問題として考えることは難しいかも知れませんが、必ずしや巡って来る問題ですので、各自、理解しやすい書物を手に取り、勉強を継続していきましょう。
演習ⅣB	竹内 光悦	回答者数が少ないため、参考程度にします。卒論、お疲れさまでした。

[2019（後期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習ⅢB	高橋 美和	アンケート回答の結果について、特にコメントはありません。少人数ゼミですので、双方向授業はおのずと実現できていると思いますし、私の声が聞き取りにくいということも皆無かと思われず。この1年、じっくりと段階をふんで、卒業研究へのスタートが切れるように指導してきました。今後、それぞれのテーマで卒論に取り組んでいきますが、ゼミではディスカッションという形での協同作用がもっと深まることを期待します。
演習ⅢB	数野 昌三	アンケート回答者が4名のみ。12名皆さんの声が聞きたかったです。アツという間に今年度1年が過ぎ、最終学年はより一層短く感じると思います。卒業論文完成に向け、早期から計画を立て、進めていきましょう！
演習ⅢB	竹内 光悦	回答者が少ないため、何ともですが、授業内でみていると、頑張っていたことは十分感じましたので、次年度に向けてまた考えます。
演習ⅢB	松浦 常夫	就職、がんばってください。
演習ⅣB	高橋 美和	アンケート回答がゼロのため、コメントできません。履修者全員、卒業論文のための調査、執筆、発表会準備のために最大限努力しました。指導のしがいのある、すばらしいゼミ生でした。
演習ⅣB	松浦 常夫	卒論を終え、卒業もできて、おめでとう。
現代日本経済論	角本 伸晃	「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」が4.00と昨年の3.91より改善している。内容が多岐にわたり理解しにくい面があるようだが、社会人になって有用な内容なので、次年度はより一層工夫をしたい。
メディア・ワークショップ	松下 慶太	回答の回収率は低かったが、それぞれの理解度は高いように思える。特に予習復習にかかる時間は他科目よりも多く、学生主体の授業として一定の評価ができる。